

都市大 貫禄の連覇

第94回全国高校サッカー選手権大会は7日、松本市の総合球技場アルウィンで決勝があり、都市大塩尻が松本第一を2-0で破って2年連続4回目の



優勝を決めた。都市大塩尻は県代表として、首都圏を会場に12月30日に開幕する全国大会に出場する。
(山浦雄一郎、片岡 望)



決勝	都市大塩尻	松本第一	
	2 (0-0)	0 (2-0)	
▽得点者	後23大島	後26吉森	
田角 桑岡	村山田村	GK	林
丸重 平 站 站代	原 山島林 源 将 田	4:4:1:1	福藤 官 統 加 橋 内 名 三 中
	沢 沢	4:4:2	
▽交代			
【部】吉森(前35站沢将)大島(後20平林)小原(後36丸山)			
【松】坂本(後19加藤)塩原(後19藤田)小松(後22名取)赤羽(後30内山)			

6戦零封 出色の安定感 都市大守備陣

〇…都市大塩尻の守備陣が奮闘した。決勝を無失点で切り抜け、今大会6試合

全てを零封する快挙を果たした。DF桑田明法(3年)は「0にこだわってやってきた。有言実行できた」と喜んだ。

マークやカパリング、球際の強さを磨き、その成果が開花した。3失点して敗退した今夏の県総体決勝以降、守備への意識が変わり、DF岡村和紀(3年)は「堅実な守備を徹底して強化してきた」と振り返る。

「攻撃陣は全国で通用する。あとは後ろがどれだけ耐えられるかだ」と桑田。全国勝利には守備陣の頑張りが欠かせない。

(山浦雄一郎)



【松本第一—都市大塩尻】前半、自陣ゴール前で体を張った守備を見せる都市大塩尻の岡村

攻撃の信念貫き通す

「相手の逆襲が怖かった」(高橋監督)と。いう前半は、持ち味のサイド攻撃からゴールを狙うものの、攻撃に人数をかけられずに無得点。PK戦に持ち込んで準決勝を勝利した松本第一のベースとも言える内容だった。が嫌な流れを変えたのが選手交代だった。試合終了後、スタンドに向かってあいさつする都市大塩尻イレブン

都市大塩尻は苦しみながらも、決勝の舞台で確かな実力を示した。圧倒的にボールを保持していたが、松本第一の堅い守りになかなかゴールが割れないもどかしい展開が続いた。それでも選手たちに焦りはなく、黙々と持ち味の攻撃スタイルを貫き通し、全国へ続くゴールをこじ開けた。高橋裕之監督は「まさに我慢比べ。よく粘った」と連覇を果たした選手をたたえた。

2年ぶりの中信勢対 都市大塩尻は立ち上決は、都市大塩尻の がりから相手ゴールに「攻撃力」に対し、松 迫った。持ち味のサイ本第一が「堅守」で迎 ド攻撃で決定機をつくえ撃つ構図となった。 ってシュート8本を浴

つちりとブロックを築く相手守備に対し、高橋監督の指示は「とにかくこぼれ球を狙っていこう」。ボールへの反応やゴールへの執念に定評がある大島武留(3年)を投入した。自らドリブルでゴール前に持ち込むと、味方のシュートのこぼれ球を左足で一蹴した。チームの狙い通りの働きに「イメージしていた通り。流れを変えられた」と、ピッチに立つたわずか3分後の決勝ゴールに笑みがこぼれ

■この記事・写真等は市民タイムスの許諾を得て転載しています。無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

学校法人 五島育英会